

「新西市民病院整備基本計画変更（案）」に対する市民意見募集の結果について

1. 募集期間：2025年2月21日（金曜）から2025年4月9日（水曜）まで

2. 提出意見数：4件（7通）

・眼科診療の見直しに関する意見 1件（5通）

・その他に関する意見 3件（2通）

※意見は、趣旨を損なわない程度に要約

○眼科診療の見直し（1件）

	ご意見の内容	神戸市民病院機構の考え方
1	長年通院しているのに、眼科がなくなるのは困る。眼科を廃止しないでほしい。	<p>今回の見直しにあたっては、地域医療における市民病院としての公的役割を踏まえ、診療科を精査しました。</p> <p>その結果、眼科診療については、他の医療機関との連携により、市街地西部地域（兵庫区・長田区・須磨本区）において十分な医療提供が可能であると判断したため、新病院では眼科診療を行わないこととしました。</p> <p>現在、通院されている方が、他の医療機関との連携により、安心して受診を継続できるよう、引き続き新病院開院に向けて丁寧な調整を進めていきます。</p>

○その他（3件）

	ご意見の内容	神戸市民病院機構の考え方
1	救急医療への対応をはじめとする必要な機能については、縮小や縮減をすることなく、地域の医療をしっかりと支える体制を備えた病院として整備いただきたい。	<p>新病院では、より高度な水準の2次救急に対応するため、脳血管疾患や心血管疾患などの対応を強化するほか、地域で対応していない放射線治療機器を導入するなど、医療機器・設備や体制の充実を図ることとしております。</p>
2	南海トラフ地震など大規模災害が想定されるなか、これまでに被災経験のある病院としての教訓を活かし、浸水対策・耐震性の確保・ヘリポートを整備し、災害に強い病院づくりを推進していただきたい。	<p>新病院では、浸水対策・耐震性確保のため、止水板の設置や、地震に強い免震構造の導入を計画しております。また、神戸市災害対応病院として、災害に備えて医薬品等の備蓄を確保するほか、屋外緊急避難場所として指定されている若松公園との一体的な活用により、地域の災害対応機能を強化するなど、災害に強い病院づくりを推進してまいります。</p>

	ご意見の内容	神戸市民病院機構の考え方
3	<p>放射線治療機器の新規導入については、以下の理由から慎重な検討が必要だと考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神戸市内には既に高度な放射線治療を出来る医療機関が存在するため、新西市民病院に同様の設備を導入することは、医療資源の重複投資となる。 2. 放射線治療には、専門的な知識と技術を持つ医師や診療放射線技師、医学物理士が必要であり、人材を確保することが容易ではない。 3. 放射線治療機器の導入には、高額な初期投資だけでなく、維持・管理、保守点検等にも多大な費用がかかる。これらの費用による病院経営への圧迫や新西市民病院整備における財政的な負担を考慮する必要がある。 4. 放射線治療は、化学療法や緩和ケアなど他の診療科との連携が不可欠である。新西市民病院がこれらの診療科との連携体制を十分に構築できない場合、放射線治療の効果を最大限に引き出すことができない可能性がある。 	<p>放射線治療については、「西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議（以下、「有識者会議」という）」において「市街地西部内でのがん治療の3大療法（手術、化学療法、放射線治療）機能を確保することで、地域住民のがん通院治療の負担軽減及び就労者のがん治療支援につながるため放射線治療機能の導入を検討することが求められる」との意見をいただいています。</p> <p>有識者会議の意見も踏まえ、新病院においては、市街地西部で対応できていない放射線治療機能を整備することで、がん治療の強化を図り、市街地西部内での治療の完結率向上、地域住民への通院治療を支援するとともに、地域におけるがん診療の拠点となる病院を目指します。</p>